



科目名：アニメ学 R460.24
クラス：M4
国籍：オーストリア

担当教員名：取屋 淳子
学籍番号：01Z18032
名前：トゥチェック・トム

2019年01月21日

期末レポート：『フリクリ』

初めに

『フリクリ』、または『FLCL』や『Fooly Cooly』というものは、2000年から2001にかけて、全6話のOVAシリーズの日本アニメ作品である。ガイナックス（GAINAX）とプロダクション・アイジー（Production I.G）により製作された。なお、『新世紀エヴァンゲリオン』の副監督である鶴巻和哉^{つるまきかずや}は、『フリクリ』の監督を務めていた。

実験的な演出や挿入歌の使い方でも有名である『フリクリ』は、日本国内より、欧米のほうが人気度が高い。英語吹き替え版は、2003年米国で放送された。また、2018年、二つの続編、『フリクリ オルタナ』と『フリクリ プログレ』は、米国ではテレビアニメとして放送され、日本では劇場用アニメとして上映された。だが、それらは元作品ほど、好評ではないようである。

『フリクリ』の主人公は小学6年生のナオ太である。ハル子という奇妙な女と出会ってから、普通の日常生活から引き裂かれ、地球を危険にさらす事件に巻き込まれる。主な話題として、男子の思春期を挙げられる。ストーリーは非常に複雑であるということを知れているが、監督によると、ストーリーを理解することはそんなに重要ではなく、むしろ、ロックギターの雰囲気ですべて『フリクリ』がよくわかるはずだということだ。

このレポートでは、『フリクリ』に関する三つのテーマについて述べたい。そのテーマは、作品に登場するキャラクター、隠喩、音楽の役割である。

キャラクター

『フリクリ』には、ナオ太という男子の主人公以外に、女性の主人公が三人も登場する。第一話から第三話までは、その人物が一人ずつ中心とされている。また、特に次の章で重要なキャラクターについても述べたい。

ナンダバ・ナオ太

小学6年生の主人公である。「たっくん」と呼ばれている。兄は米国のプロ野球で活躍し、父はパン屋の職人だ。クールな外観で言動するが、実は普通の少年のように、不安や内気の気持ちが多い。常に野球のバットを持っているが、あまり使わないようである。ハル子にギターで頭に殴られてから、そこに様々な物が出現するようになった。

ハルハラ・ハル子

ハル子は、「わがままの大人の女」として描かれており、天然ボケの性格を持つようである。ギターを武器として振り回し、自分の目標を達成するためにナオ太を利用する人物だ。現に宇宙人であり、地球で捕らえられたアトムスクを追いかけている。

サメジマ・マミ美

マミ美は、ナオ太の兄の前の彼女で、いじめられており、問題を抱えた女子の高校生である。前の恋人が米国へ行ってから、ナオ太と付き合っている。多くの場合、携帯機のゲームをしており、未成年にもかかわらずタバコを吸っており、放火している。監督によると、「No future」な感じ、人生や現実を諦めた人物だということだ。

ニナモリ・エリ

ニナモリは、ナオ太の同級生で、大人っぽい学級委員長の女の子である。両親が離婚したため、彼女は大人に近づこうとする。自分は子供であるが、大人だと偽ったようである。作中では、その考え方が変わり、ニナモリは自分を子供として認めることで成長する。

カンチ

ナオ太の頭から出てきた物の一つで、カンチはロボットである。ナオ太を弾丸として使いながら、敵と戦闘する。ナンダバ家で、掃除等をさせている。

アマラオ

アマラオは、海苔のような眉毛で有名な大人の男性である。特殊入国管理官として、宇宙人との関係に責任を持っている。過去に、ナオ太と同じように、ハル子に使い捨てられた。

アトムスク

アトムスクは、あまり登場せず、巨大な宇宙の生物である。計り知れない力を持ち、最後にナオ太に解放される。なぜか「海賊王」とも呼ばれている。

隠喩の分析

キャラクターの隠喩

ナオ太の立場から、前章で述べられたキャラクター達は様々な方法で解釈されることができると、私は考える。まず、三人の女子は、思春期の別々な段階を表象する。マミ美は幼年期を表象し、ハル子は成人期を表象し、ニナモリはその二つの間にある時期を表象すると考えられる。第四話では、「私はたっくんの少年の日の心の中にいる青春の幻影。」「何それ、アニメ?」、というハル子とナオ太の会話も出てくる。

ナオ太はハル子にあこがれるが、達することができない。一方、マミ美は自分の命を制御できず、子供のように他人に依存する。さらに、ナオ太は第四話で成長した後、マミ美に振られた。最後に、二人の女子は去り、ナオ太は自分を子供として認め、成長し、ニナモリと共に残る。

登場する男性の大人のキャラクターは、様々な男のイメージを表象する。ナオ太の父は反面教師で、他の大人より未熟な行為をする。同じように、アマラオは、監督によると、なお太がそのまま大人になったら、そのような人間になるということだ。しかし、

最後にアマヲはナオ太に拒否された。

アトムスクは、子供の立場から理想的な男を表象する。巨大な力を持ち、ハル子に望まれており、ナオ太にとって完璧な男である。また、カンチはその海賊王の力を借りる時にも、アトムスクと同じように身が赤くなり、誰にも負けない完璧な男の表象になる。さらに、アトムスクのマークは最初、「大人」の漢字に基づきデザインされたが、最後の第六話では、「小人」の漢字に変化した。



図1：「大人」のマーク



図2：「小人」のマーク

その他の隠喩

『フリクリ』は、隠喩で溢れているといえるかもしれない。特に、性的な隠喩が数多い。また、人々の性格の違いを対比する隠喩も少なからずある。例えば、辛い物や酸っぱい物が好きな人とそのような物が嫌いな人、または左利きの人と右利きの人で、対照性が作られている。監督によると、その二つの場合には、前者のほうがいいということだ。そのため、特別な人物はその特徴を持っており、ナオ太のような普通の人はそのような特徴を持っていないようである。

しかし、一番代表的な隠喩は、「バットを振る」ということではないだろうか。上記と同じように、監督は人々を「振るやつ」と「振らないやつ」に差別するようである。第四話のクライマックス、それまでにバットを振らなかったナオ太は、皆の予想に反し、ギターをバットとして振り、町を救う。振らない人は、自分の限界を知りたくない、監督は説明する。振れば、ホームランを打つかもかもしれないが、おそらく打たない。しかし、振らなければ、ホームランの可能性が残る。そのため、振らない人はその可能性を守るように、危険を冒さない。一方、「振るやつ」は失敗の可能性にもかかわらずに、比喩的なバットを振る。

音楽の役割

『フリクリ』の挿入歌は一つを除いて、全部「the pillows」というバンドに制作された。さらに、アニメ作品のために作った曲ではなく、既に存在していた音楽だけが使われた。監督によると、そのバンドは有名ではないが、曲が作品とは完璧に合っていたので、それを使用したということだ。「the pillows」のジャンルは、オルタナティブ・ロック、またはパンク・ロックだと考えられている。パンク・ロックの理想のように、『フリクリ』は、権限に対する反逆や無政府主義や虚無主義等のようなテーマを含む。

また、歌詞のある曲は非常に多くある。テンションが高い時にも、穏やかな場面にも、そのような音楽が使われている。さらに、他の成功したアニメ作品と同じように、映像と音声の調和的な一体化は、視聴者の感情も挑発されているのではないだろうか。

作品のストーリーの中でも、音楽は重要な役割を果たす。ギターは、銃や刀のような武器として使われ、バットののように振られた。また、登場するギターやベースギターは全部、実在する楽器に基づいている。ハル子のベースギターは「Rickenbacker 4001 Azureglo」に当たり、アトムスクのベースギターは有名な「Gibson EB-0」に当たり、ナオ太のギターは代表的な「Gibson Flying V」というギターに当たるようである。

「I am quite surprised to hear that "FLCL," which has been criticized as being one of the most incomprehensible shows of all Japanese anime, is being so favorably received by American fans! However, difficulty in comprehension should not be an important factor in "FLCL." On the contrary, I believe the "rock guitar" vibe playing throughout the show is a shortcut on the road to understanding it.」

鶴巻監督

参考資料

鶴巻和哉 (2000) 『フリクリ』 GAINAX・Production I.G

鶴巻和哉 (2002) 『フリクリ・オーディオ・コメンタリー副音声』
GAINAX・Production I.G、海外版 DVD

Ruh, Brian (2006) 「The Robots from Takkun's Head: Cyborg Adolescence in FLCL」
『Cinema Anime (Palgrave Macmillan)』 pp. 139-157

「Why the FLCL Dub is So Important」 <https://www.youtube.com/watch?v=QGiTZYrY34Y>
(2019年1月21日参照)

「Everything You Didn't Know About Fooly Cooly」 <https://www.youtube.com/watch?v=LXO4A0-vKf8>
(2019年1月21日参照)

「FLCL - Journey To Maturity」 <https://www.youtube.com/watch?v=foulx-DTsrc>
(2019年1月21日参照)

「FLCL: Swing the Bat」 <https://www.youtube.com/watch?v=Spz4miBZR3g>
(2019年1月21日参照)

「FLCL bot」 https://twitter.com/flcl_bot (2019年1月21日参照)

「フリクリ」 <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%83%AA%E3%82%AF%E3%83%AA>
(2019年1月21日参照)

「FLCL」 <https://en.wikipedia.org/wiki/FLCL> (2019年1月21日参照)

「FURI KURI」 <https://web.archive.org/web/20021220121354/http://www.production-ig.com/furiKuri.html> (2019年1月21日参照)